



附小だより



9月

神戸大学附属小学校

2020_08_31

自然とともに

校長 渡邊 隆信

厳しい残暑が続いています。いかがお過ごしでしょうか。本校児童や保護者の皆様には、例年よりも短い夏休みとなり、また新型コロナウイルスのために、遠出の旅行などもしにくかったのではないかと思います。

感染症拡大の収束を見通すことができず、日常の生活がいろいろな面で制約されるなかで、私が新しくはじめたことが二つあります。

一つは自宅の床の間に花を生けることです。神戸大学の授業と会議は4月から8月まで、基本的に在宅でのオンラインだったので、私は床の間でよく仕事をしていました。そんな折、近所に住む両親が、庭に植えているアヤメの花をもってきてくれたのがきっかけです。それ以来、コデマリ、リキュウバイ、アジサイなどをもらってきて花瓶に入れていました。今はササユリです。花を眺めていると気持ちが落ち着きます。

もう一つは、近くの自然公園を散歩することです。毎日とはいきませんが、週に何度か夕方に小一時間ほど歩いています。散歩するときにはいつも双眼鏡をもっていきます。学生の頃からバードウォッチングが趣味で、これまで全国のいろいろな場所に探鳥に行ってきましたが、この度散歩を始めてみて、身近なところに想像以上に多くの野鳥がいることに気づきました。なかでもキビタキとオオルリに出会えたのは感激でした。どちらも夏鳥で、宝石のような美しさに加えて、鈴を転がしたような美しいさえずりが印象的です。

花生けにしても散歩にしても、どちらも身近な自然とのふれあいです。新型コロナウイルスがあってもなくても、季節はめぐり、花も鳥も移り変わっていきます。人間もそうした変転する自然の一部だと改めて感じています。

秋になれば明石公園の森の木々も色づき、こずえには渡り鳥が羽を休めに立ち寄ります。また時間をみつけて、双眼鏡片手に公園内を散策してみたいと思っています。皆さんも、自宅周りや校庭の自然に目を向けてみてはいかがでしょうか。



キビタキ（学生時代に鳥取県大山にて筆者撮影）

おもいやり

2年生の学年目標のキーワードは、「おもいやり」です。1年生の時は、「ぎゅっ!」でした。子どもたち一人ひとりの持ち味や良さを発揮し、考えを出し合って“ぎゅっ”とまとめたり、“ぎゅっ”と力を合わせてチャレンジしたりして、学習や生活を創り上げていくことを目標としていました。

今年は、“ぎゅっ”とする時に相手を思いやる気持ちをもつことができるようになることを目標としています。自分の思いや考えを伝え合い、聞き合う中で、考え方や関心、意見の違い等を認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくり、仲間と支え合い、相手を思いやりながら学びや生活を共に高め合うことができるようにしていきたいと思ひます。

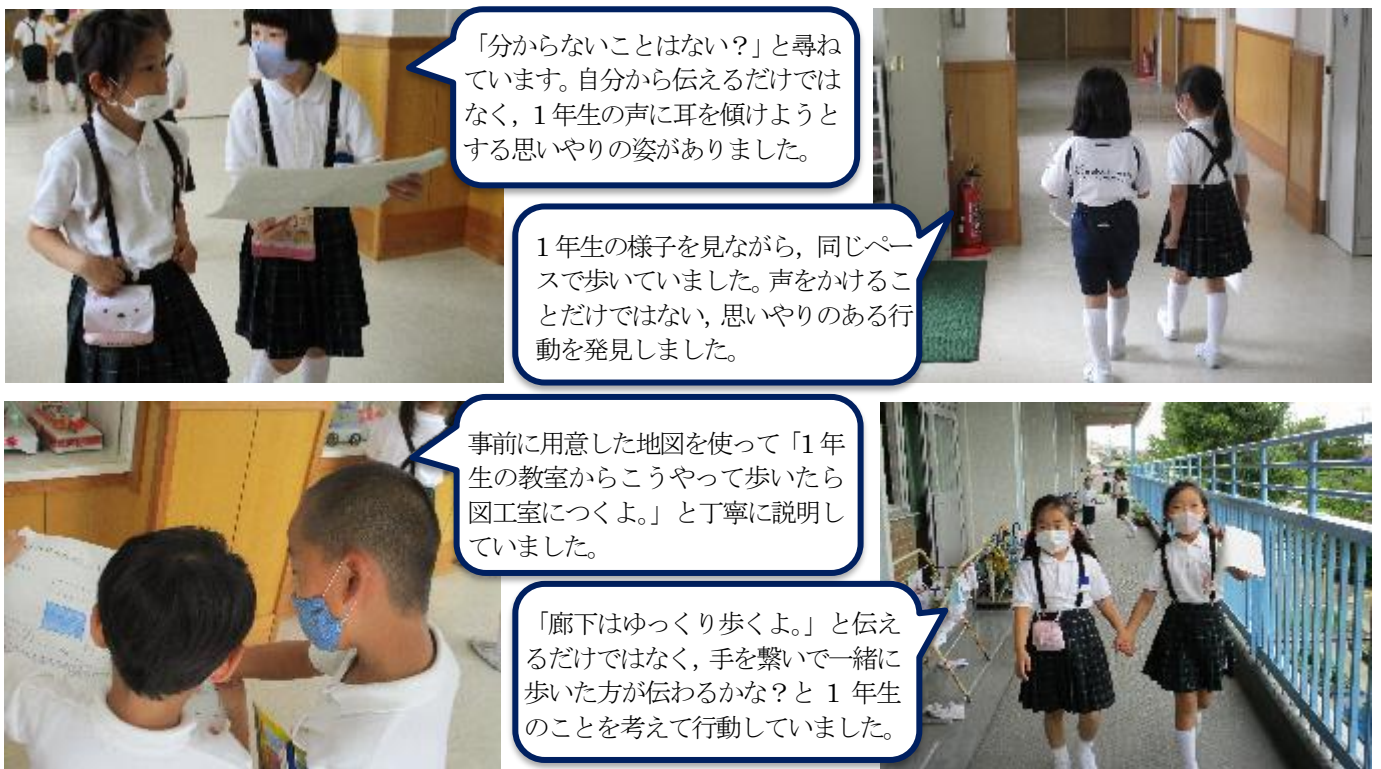
子どもたちが考える、具体的な「思いやりのある行動」は右の通りです。他にもたくさん考えましたが、これらを有言実行できるように支えていきます。

- 「ありがとう」と友達に言う。
- 困っていたら、たすけるなど、人の気持ちになって考えて行動する。
- 友達のいいところをほめる。
- 人の話を聞くときは、相手の目を見る。

単元「附小のあたらしい仲間をむかえよう」

日々の学習ではもちろんですが、7月の中旬に行った単元「附小のあたらしい仲間をむかえよう」において改めて「おもいやりのある行動」について考えることができる機会がありましたので、ご紹介します。

「附小のあたらしい仲間をむかえよう」では「1年生を温かく迎え入れるために自分たちにできることを考え、おもいやり的心をもって優しく接することを通し、自分が成長したことに気付いたり、自分の役割が増えたことへの喜びを感じたりすること」を目標としていました。自分たちにできることとして「学校案内」をすることに決定し、1年生に学校の紹介をしました。その時の様子がこちらです。



学校案内をした後の2年生の子どもたちは、「1年生に喜んでもらえて、良かった。」「去年、2年生に案内してもらったときのことを思い出しながら案内したよ。」と話していました。どうしたら喜んでもらえるか、どうしたら1年生のためになるかと1年生のことを考えながら試行錯誤していたことがよく分かりました。

1年間、日々の生活の中で思いやり的心を育み、また一歩大きく前進できるように取り組んでいきます。

3年生の学習の取組「見つめよう、私の朝ごはん！」

本単元は、1日の生活をスタートさせる活力源である「朝食」の効果や、よりよい生活習慣を形成しようとする事の大切さを子ども達が認識できることをねらいとしています。

朝食の効果について考える

初回の授業では、映像教材を用いて、朝食の科学的な効果について学習しました。「ブドウ糖により脳の働きが良くなること」や「体温の上昇」、「消化器官が活発になることによる排便の促進」などの話に子どもたちは興味津々でした。実際に朝食を食べなかったことがある子どもが、「確かに、朝ごはんを食べなかった日は、頭がぼーっとして眠くなっちゃったことがあるよ。」と、自身の経験と重ねて朝食の効果について話す姿も見られました。

食事の「質」を考える

子どもたちは、2年生で学習した「黄（エネルギーのもと）」、「赤（体をつくるもと）」、「緑（体の調子をととのえるもと）」の食べ物の分類とその役割をとともよく理解しており、学習中には、朝食をただ食べればいいのかではなく、「栄養のバランス」を考えることが大切だという声が多くあがりました。学習した知識を生かし、当日の給食に用いられている食材を3色に分類する学習場面では、食材を素早かつ確に仲間分けすることができました。また、給食の時間には、「言われてみれば、給食って『緑』の食べ物がたくさん入っているね。」などと、学習したことを生かしながら、一口一口味わう姿が見られました。



自身の生活をふりかえる

授業で学習したことを自分の生活に還元する取組も同時に進めています。

家庭の協力を得て、子どもたちは7月の始め頃から「朝ごはん日記」を付けました。その記録をもとに、自分が食べた毎日の朝食を「黄」「赤」「緑」に分類することに挑戦しました。「私の家の朝ごはんの『赤』は、毎日の卵料理。あとは、魚が多いよ。」「『緑』は毎朝、お母さんがミキサーで野菜ジュースを作ってくれるの。」「あれ？この日は『緑』が無いなあ…。」など、子どもたちの反応は様々でした。毎日何気なく食べている朝食も、記録に残して見返すことで、栄養バランスに関する新たな気づきが得られたようです。

夏季休業期間中には、学習したことを生かして、各自「朝食づくり」にも挑戦しました。家族と相談して献立を考え、実際に調理をし、写真等で記録をしてまとめました。家族と取り組み、毎日の栄養について考えることで、これからの食生活をよりよくしようと考える機会となりました。

よりよい発育のために

今回の食育の学習は、4年生の保健「二次性徴」に関する学習にもつながる内容です。思春期が目前に迫ったこの時期に、栄養バランスを心掛けた食事を摂ることは子どものよりよい発育のために非常に大切です。小学校での食育の学習をきっかけに、子どもたち一人ひとりが、自身の食生活への関心を高め、生涯を通じてよりよい食生活を築いていこうとする資質の基礎を養ってほしいことを願います。

日	曜	9月の行事予定	10月の主な行事予定
1	火		6日(火) 諸費振替日
2	水	歯科検診 1・4年	8日(木) 中等教育学校への進学説明会
3	木	内科健診 4・6年	13日(火)～15日(木) 6年生宿泊活動
4	金	6年 宿泊活動説明会 (15:00-16:00)	16日(金) 諸費振替日
5	土		30日(金) 保護者懇談会
6	日		
7	月	諸費振替日	
8	火		
9	水		
10	木		
11	金	縦割り遠足 (※延期の場合14日と時程の入れ替え) 弁当日	
12	土		
13	日		
14	月	弁当日(※縦割り遠足予備日)	
15	火		
16	水	諸費振替日	
17	木		
18	金		
19	土		
20	日		
21	月	敬老の日	
22	火	秋分の日	
23	水		
24	木		
25	金	教育実習終了	
26	土		
27	日		
28	月		
29	火		
30	水	合同避難訓練	

